
メリーポピンズ神楽坂ルーム

令和4（2022）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1. 東京都第三者評価推進機構提出内容

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・野外体験を提案実践し、自分で考え、行動する思考を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもがしたいと思う活動を安全に行えるよう見守り、支援してゆきます。 3)感じたこと、考えたことを言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子どもたちにつけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。 5)地域の皆さまが子どもを育てるコミュニティーづくりを目指します。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の計画と実行 一人ひとりの特性を理解し、子どもが毎日、生き生きと楽しんで一日を過ごせるように、保育計画を立て実践する。体験させたい事を一つでも多く実体験させる。行事は準備段階から子どもと楽しんで行い、当日を迎える。 ・社会人としての自覚 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、常に笑顔で心がける。チームワークを重視し声がけし合いながら、子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いかを判断して、自ら行動し、改善点を提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての向上心 子どもの命を預かる重みと緊張感を持続して持ち、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。先輩、後輩との関わりの中で、良い事例は受け入れ、改善しなければならぬ事は、皆で話し合い同じ思いを共有する。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	毎日2回の散歩や畑仕事を日課に取り入れるなど活発な外活動が行われており、子どもの食育活動にもつなげられています
	内容	「にんげん力。育てます。」の理念のもと園での活発な外活動を通して子どもたちはさまざまな経験を積んでいます。毎日2回の散歩では、遠くまで足を延ばし体力向上を図っています。週1回の商店街ツアーでは、職場見学とともに働く人々と交流します。月1回散歩先の公園で行う青空保育には、地域に住む近隣の親子も自由に参加しています。2歳児は毎週2回、園バスで園が借りている市民農園に出かけて畑仕事にも挑戦しています。この活動は農作物を収穫し調理し、食するという食育活動につなげています。子どもの自立へと通じる活発な外活動です。
2	タイトル	食育活動を通してどろんこ会グループの大切にしている「自分でできることは、自分でする」ことで子どもたちの生きる力をはぐくんでいます
	内容	園の前のプランターや園の畑でいくつの野菜を栽培し、それらの野菜を洗ったり、皮をむいたりしています。給食時には子どもが自分でご飯や汁物を運び、自分で席を選んで食べています。あえて陶器の茶碗を採用し、落としたり割れる、だから大事に運ぶことなどを、体験を通して身につけています。食育の取り組みは、イベントごとにポートフォリオを作成して玄関に掲示し、保護者に紹介しています。こうした食育活動を通してどろんこ会グループの大切にしている「自分でできることは、自分でする」ことで、子どもたちの生きる力をはぐくんでいます。
3	タイトル	子どもの成長していく姿を職員間で共有し、それを具体的に、さまざまな形で保護者に伝えられるような仕組みがあります
	内容	その日の子どもの様子を「3分間対応」として降園時に保護者に詳しく伝えていきます。子どもの様子は職員間で共有し、どの職員でも保護者に伝えることができる体制があります。単にその日にあったことを伝えるにとどまらず、保護者の思いを聞ける聞き方ができるよう努めています。子どもの成長が感じられる姿は写真に撮り、エピソードをまとめることで、職員間で振り返りを行い、保護者にも子どもの成長を具体的に伝えられるようになっていきます。こうした取り組みは利用者調査の結果にも表れており、職員の対応の良さに感謝の声が多くみられました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	数多くの研修が行われていますが、キャリアパスと連動した一人ひとりの職員を対象とした個別の研修計画の作成が望まれます
	内容	「保育の質を上げる会議」をはじめとして、どろんこ会グループの研修計画は極めて充実しており、人材の育成につながっています。しかし、職員一人ひとりにフォーカスした個別の研修計画が明確ではありません。少ないスタッフで運営することが求められている小規模園だからこそ、育成計画や役割などを想定した研修計画による個々のスキルアップがさらに強固なチームワークにつながると考えられます。どろんこ会グループでは等級によるキャリアパスも明確ですが、個別の研修計画による成長を本人のモチベーションアップにつなげることが期待されます。
2	タイトル	園や園以外拠点スタッフの持つ専門性を生かした活動がより充実し、さらに保護者に向けた講習会などが企画実施されることを期待します
	内容	公園で地域の子育て親子に向けて絵本の読み聞かせをしたり、紙芝居を読んだりする「青空保育」や、園に来て製作や水遊びができる「子育てサロン」を毎月実施しています。これらの活動の様子は、「ちきんえっぐだより」というお知らせを毎月発行して伝え、またその募集を掲載しています。現在、これらの活動への参加者はそう多くないので、活動内容や広報の方法、掲載場所などを検討されてはいかがでしょうか。また園や園以外拠点スタッフの持つ専門性を生かし、在園の保護者に向けた講習会なども企画実施されるとさらに良いでしょう。
3	タイトル	多くの関係機関との交流機会を増やすことによって地域のニーズに応え、地域福祉の担い手としての存在感を増やすことが期待されます
	内容	コロナ禍という事情もあって地域における交流活動は停滞しがちでしたが、施設長は地域における交流機会を増やしていく意向を持っています。本部マネージャーとの協働によって行政及び関係機関からの情報収集も行われていますが、地域の状況は地域にいてこそ把握できることも多いと思われます。また、保育環境が厳しさを増す中で認証保育のあり方も大きく変化することが見込まれます。他園との交流、さらに踏み込んだ関係機関との関係性などを通して情報を把握し今後の園運営に生かすことが期待されます。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル①	保育に向き合う職員の方向性をひとつにまとめて、チームワークの強化を図っています	
内容①	<p>施設長が小規模園ならではの利点としてあげているのは、全職員が同じ方向を向いて保育に取り組んでいることです。そのために新入社員からベテラン職員、パートタイマーのスタッフまで、すべての職員が日ごろから声をかけ合い、苦手分野を補う風通しの良い環境づくりを目ざしてきました。柔軟に組まれるシフトやローテーション、伝達だけではなく話し合う場として位置づけている園会議、問題点があれば速やかに話し合いで解決を図る仕組みなど、施設長のリーダーシップのもとで方向性がひとつにまとまり、チームワークの強化へとつながっています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル②	おもちゃの配置など遊べる環境を工夫し、花や動物で自然を感じられるようにしています	
内容②	<p>保育室は1つの部屋を大きく3つに区切り、活動の流れや遊ぶ内容によって環境の構成に変化をつけています。子どもの興味や関心に応じておもちゃを配置し、自由に遊べる時間を設けることで、子どもが自ら選んでそれらを手にとれるようにしています。また2週間おきに色別、大きさ別などテーマを決めるなど、配置に変化を持たせています。雨の日は、ベンチや滑り台なども出して、室内でも十分に遊べるような工夫があります。室内には花や植物が多く配置されていたり、ハムスターや魚などが飼われていたりするなど、自然を感じられる工夫もあります。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
タイトル③	入園や卒園時に、安心して新たな生活が始められるよういねいに説明をしています	
内容③	<p>入園前の園見学の際には、保護者にいねいに説明することで、安心感と納得感を得て入園してもらえよう努めています。保育の考え方やその内容に加え、認可保育所と認証保育所との違いやメリット・デメリット、小規模園ならではの利点、2歳児までを受け入れ、3歳児から転園になることなどについて説明しています。転園にあたっては、書類提出や転園先の情報収集の方法など、施設長からアドバイスをいねいに行うことで、円滑に移れるようサポートしています。今年度の卒園時には、園で球根から育てたチューリップを渡して送り出す予定です。</p>	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目 カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評価	標準項目
あり	◆1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
あり	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評価	標準項目	
あり	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
あり	◆2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
あり	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
カテゴリー1の講評		
公表コメント	理念や基本方針が確立されており、職員及び利用者へ周知が図られています	
	全てが「子育て」の視点で理念や方針が明確にされており、職員一人ひとりまであらゆる機会を通して周知が図られています。全職員にはグループ全体が目ざすべき保育を示す小冊子「保育品質マニュアル」が配付され、常時携行することによる振り返りが求められています。年1回行われる全職員参加の全体会議では、代表から理念と方針が伝えられ、それを基にそれぞれの園の事業計画が策定されます。保護者へは入園時に配付される入園のしおり、重要事項説明書に明記するとともに、園の玄関に掲示して理念などの周知と理解を図っています。	
	施設長は園の事業計画を立案する責任者として目標に向けた指針を示しています	
	施設長は年1回発表される運営本部ミッションを基に園の事業計画を策定し、園会議において自らの方針を伝えるとともに職員個人の年間目標の設定へとつなげています。施設長は日々の保育において職員一人ひとりがどろんこ会グループの目ざす方向に沿って子どもをリードしているかを常に確認し、職員との振り返りの中で方向性を見失うことのないようサポートしています。施設長は事業計画を立てる責任者として、全職員に対する理解の促進と方向性の共有が求められており、チームワークを大事にししながら目標達成に向けリーダーシップを発揮しています。	
非公表コメント	重要案件は決定手順が定められており職員及び利用者への周知も図られています	
	本部の経営会議、取締役会において決定された重要案件は、管理職及びマネージャーを経て園に知らされるとともに、社内報アプリで職員にも周知が図られています。施設長は決定に至ったプロセスも含めて園会議で伝達しています。確認を要する議事録及び資料などは回覧し、押印を義務づけているとともに連絡帳を通じてすべての職員への徹底も図られています。保護者へは専用のアプリを通して配信されており、個々の連絡帳でも周知を図っています。また、お迎え時などでもアプリに配信した内容を改めて口頭で伝えるなど、周知の徹底が図られています。	
カテゴリー1の講評補足		

2		カテゴリー2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリー1(2-1)			
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6	
評価項目1		事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	
		評点(000000)	
評価	標準項目		
あり	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		
あり	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		
あり	5. 事業所の経営状況を把握・検討している		
あり	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		
サブカテゴリー2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1		事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している	
		評点(000)	
評価	標準項目		
あり	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		
あり	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		
あり	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		
評価項目2		着実な計画の実行に取り組んでいる	
		評点(00)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		
あり	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		

	<p>カテゴリー2の講評</p> <p>利用者及び職員の意向を把握するとともに、地域ニーズを捉えた園運営が行われています</p> <p>保護者の意向は、毎年9月に実施される利用者アンケート及び年2回行われる保護者懇談会、保護者代表も参加する運営委員会、面談などを通して把握されています。職員の意向や希望はアンケートによる意向調査を基に施設長が面談し、案件によっては本部マネージャー、関係部署を通して解決が図られています。施設長会議における勉強会などで得られた業界情報は単なる伝達ではなく、施設長が職員の意見を取り入れながら園運営に生かしています。施設長は自らの園が先頭に立って地域のニーズに応えるべく、地域支援活動に取り組んでいます。</p> <p>長期計画を基に園が中期計画を策定し、単年度の活動へとつなげています</p> <p>どろんこ会グループが目ざす20年、30年後の長期ビジョンを基に、園は3か年の長期計画を策定しています。毎年開催される12月度の施設長勉強会では具体的な活動目標を示す運営本部ミッションが発表され、施設長は複数のミッションと園の課題などを踏まえて検討し、向こう3か年の事業計画を策定しています。保育の内容に関する全体的な計画を示す年間指導計画など、単年度計画は事業計画書を基に作成され、随時振り返りが行われています。事前に予算処置が必要な案件があれば、事業計画に反映するなどある程度柔軟な予算編成が行われています。</p> <p>職員の個人目標は本人の「思い」も反映させながら作成され、振り返りも行っています</p> <p>施設長は、職員個人が目ざす年度目標についてどろんこ会グループの理念及びビジョン、基本方針の確認だけでなく、本人の「思い」も反映させることに重点を置いて作成しています。園全体の目標達成に向けては毎月の園会議において振り返りが行われ、個人目標に関しては半期に1回義務づけられている施設長面談において進捗状況を確認しており、予定通り進んでいない場合は問題点を確認すると同時に修正が図られています。また、個々の職員の行動特性の基本と定める「コンピテンシー」に連動していることの確認も毎月行われています。</p>
公表コメント	<p>カテゴリー2の講評補足</p>
非公表コメント	

3		カテゴリ-3	
経営における社会的責任			
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	◆1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		
あり	◆2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
あり	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
あり	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの見学・実習の受け入れ体制を整備している		
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
あり	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
あり	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

	<p>カテゴリー3の講評</p>
公表コメント	<p>全職員を対象に人権チェックを行うなど、子どもの尊厳を守る保育を実践しています</p> <p>保育に携わるものとして守るべき規範や倫理をはじめ就業規則など、細かく行動指針を示した冊子「保育品質マニュアル」がすべての職員に配付され、携行することによる振り返りが求められています。何よりも子どもの尊厳を守る保育の実践を心がける本部と園は「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」を基に年2回職員自らの行動を振り返って人権チェックを行っており、気づきがあれば園会議の場において共有されています。また、個人情報やコンプライアンスに関してもチェックしているなど本部と一体となった人権に対する取り組みは綿密です。</p>
	<p>苦情などへの対応は組織的に行われており、虐待への備えもマニュアル化されています</p> <p>次年度に向けて行われるキックオフミーティングでは、子どもの命にかかわるマニュアルの再確認を行うと同時に、保育士における虐待の定義についても話し合われており「虐待対応マニュアル」も整備されています。子どもや保護者に対する職員の対応に問題があると感じた場合は、施設長がただちに本人と話し合いは正しています。保護者による虐待の疑いがある場合は、まず記録をしたうえで施設長及び保育士が保護者に聞き取りを行い、同時に本部のマネージャーを通して管理職に報告されますが、ケースによっては本部を通して関係機関に連絡しています。</p>
	<p>公園で毎月行う青空保育や紙芝居などを通して地域の保育ニーズに応えています</p> <p>地域における子育て支援の一環として、未就園の地域の親子も参加できる「青空保育」や紙芝居、読み聞かせなどを行っています。月に1回、同じ公園、同じ時間に年間を通して通うことで、園と地域をつなぐきっかけとなっており、子育てや出産に関する相談にも応えることで地域のニーズを感じ取る貴重な機会ともなっています。コロナ禍以前は世代間交流を目的に高齢者施設への訪問も行われていました。また地域ネットワークへの参加はコロナ禍で難しい状況にありますが、施設長は今後も地域における福祉ニーズの把握に向けた活動を目ざしています。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリー3の講評補足</p>

4		カテゴリ4	
リスクマネジメント		サブカテゴリ1(4-1)	
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
あり	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
あり	◆4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解し対応できるように取り組んでいる		
あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
		サブカテゴリ2(4-2)	
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		
あり	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している		
あり	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		
あり	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		
カテゴリ4の講評			
公表コメント	見失いや置き去りなど、さまざまなリスクを想定して細かく対策が講じられています 災害や事故に対する備えは、子どもの命にかかわることを最優先として避難訓練、不審者侵入防止訓練などを行っていますが、毎日の保育の中で想定されるリスクには特に力を入れて取り組んでいます。園は比較的長時間の散歩などの野外活動を日課としていますが、見失いや置き去り事故を防止するために人数確認リーダーを定めてダブルチェックを徹底しています。全職員を対象にリスクマネジメント研修が毎年実施されるとともに、保育にかかわる詳細が明記された「保育運営マニュアル」の再読を毎年義務づけるなど、想定される危険への備えは周到です。		
	事業継続計画としてクライシスマニュアルを策定し、あらゆる緊急事態に備えています 社会のインフラともいえる保育事業には、緊急事態に備えた体制が求められます。どろんこ会グループでは激甚災害・児童死亡事故等の重大事故にも備えるため「クライシスマニュアル」を作成し、想定される緊急事態に備える体制を整えました。日常想定される事故などは「事故発生時対応フローチャート」を基に迅速な対応に努めています。通院対応を行ったけがなどの事故は、全職員の押印が義務づけられている事故記録簿に記録するとともに本部と共有され、原因究明と再発防止について話し合いが行われています。		
	定期的にセキュリティチェックを行うなど、個人情報を含めた情報管理は厳密です 保育料や会計データ、入園児情報など機密性の高い情報は管理するパソコンを限定し、管理者のみがアクセス可能となっています。情報の保管は、規定の期間保管したのち、紙媒体に関しては溶解処分を施して破棄しています。入社時及び退職時に秘密保持に関する誓約書の記入を求めるとともに、年2回全職員を対象に「情報セキュリティチェック」を行うなど情報管理の徹底が図られ、コピー時における裏紙の使用禁止やUSBメモリの外部持ち出し禁止も義務づけられています。情報公開要綱は玄関に掲示し、保護者が確認できるようになっています。		
非公表コメント	カテゴリ4の講評補足		

5		カテゴリ5	
職員と組織の能力向上			
サブカテゴリ1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
あり	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			
評価		標準項目	
あり	◆1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
あり	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
あり	◆3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
あり	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
あり	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
あり	◆3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
あり	◆4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		
サブカテゴリ2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
あり	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

	<p>カテゴリ5の講評</p>
公表コメント	<p>人材の確保と育成を喫緊の課題と捉えて、本部と連携してきめ細かな対策を講じています</p> <p>採用に関しては本部人事採用部が一括して行っており、通常のリクルート活動とともに「友人紹介制度」などを実施して人材確保に取り組んでいます。また新たに大学や専門学校などに社員を講師として派遣する「学び事業部」を新設することで新卒採用につなげる試みも始まりました。さらに、本部及び園が課題として離職防止に力点を置いており、施設長と本部マネージャーが適宜面談を行うなどの対策を講じています。また年1回職員に対する意向調査を実施して異動や働き方などについて希望を聞き取っており、リーダーの発掘と育成にもつなげています。</p>
	<p>等級に基づくキャリアパスが明確になっており、研修をスキルアップにつなげています</p> <p>人事考課制度に基づいて各等級ごとの職務及び職責が明確になっています。運営本部ミッション及び策定会議、園の年間計画である事業計画で明確化された個人目標は、半期ごとの振り返り、期末の達成度評価を経て処遇の基準となる等級が決定し翌年度の基本給に反映されています。毎月「保育の質を上げる会議」が行われていますが、施設長が適切な外部研修を選んで本部に推薦することで職員のスキルアップが図られています。また地域に向けた「子育てスキル講座」及び新人対象のフォローアップ研修、他園でのOJT研修も実施されています。</p>
	<p>職員の意欲向上につながる試みが風通しの良い人間関係の形成につながっています</p> <p>第三者評価における職員自己評価結果からも人間関係の良さが見て取れます。本部は職員の給与アップを図るための加算「処遇改善Ⅱ」をモチベーションを上げるための制度と捉えており、施設長は職務姿勢などを見ながら公正に対象者を決定しています。希望する休みがあればできるだけシフトに生かし、休憩時間も1時間確保できるようにローテーションを組みました。研修内容は園会議で共有されているとともに、日ごろから職員同士が声をかけ合う雰囲気づくりに努めており、コミュニケーションの良さは職員の大声が聞こえない園内からも推測できます。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリ5の講評補足</p>

7		カテゴリー7
7		事業所の重要課題に対する組織的な活動
		サブカテゴリー1(7-1)
		事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている
評価項目1		事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)
		前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)
		<p>施設長は目標として、ゾーン保育の工夫、自発的・意欲的に話し合える環境、保育の質向上のための研修の3点を挙げましたが、これらを実現するために必要とされるのが「チームの再構築」でした。背景にあったのはチームとしての統一感の欠如であり、職員の保育に対するベクトル(考え方の方向性)が必ずしも一致していなかったことです。コロナ禍ではあっても子どもたちに生きた体験をさせるにはどうしたらいいか、子どもの発達過程を学び、具体的なねらいを持った計画を立てるにはどうしたらいいか、子どもの自主性とは何か、保護者への対応など、課題は山積していたものの、園の意志として一つの方向性を向くことができませんでした。施設長は多くの課題の中からまずは「保育の質の向上」についての意思統一を図るために、月1回の園会議を中心に全職員の思う方向性を聞き、時には昼会議及び緊急会議を行ってベクトルの一致を図りました。出勤日にあたる正職員、パート職員全員が参加して行われた会議において、施設長は小規模園だからこそ職員全員が同じ方向を向くことの必要性を訴え続けたことで解決策へとつなげました。</p>
目標の設定と取り組み		具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
取り組みの検証		目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
検証結果の反映		次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評		
		<p>チームの再構築を目標として職員とのベクトルことを合わせることに注力した施設長ですが、結果的に「保育の質の向上」は職員同士の良質な関係や職員の意欲を生み出すリーダー層のマネジメント力にあると結論づけて説明し、理解を得ることができました。本年度は1名を残して職員が入れ替わって空気は大きく変わったとの印象があり、職員も職員間の関係性の良さを評価しています。しかし施設長は大きな概念としては理解されたという印象は持っているものの、改善点を具体的に落とし込めていないという思いがあり、引き続き個人面談とチームミーティングを重ねました。その結果、施設長の考える方向性に関しては「理解を得た」という感触を持っていますが、同時に職員間の良質な関係を作り上げることの難しさも痛感しています。しかし、マネジメント力向上に伴ってリーダー層が確立すると同時に職員同士の相互理解が進み、お互いに補い合う意識が生まれ始めたことによって、チームとして構成されつつあると実感しています。施設長は職員間の良質な関係が築かれているとともに、オペレーションが円滑になったことを実感しており、リーダー層の意識及び指導力がさらに増すことに期待を寄せています。</p>
非公表コメント		カテゴリー7評価項目1の講評補足

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>施設長は家庭環境や就労状況など、保護者の置かれた状況を正確に把握したうえで、適切できめ細かな支援を行うことを目標としました。背景にあったのは職員における保護者への対応に関する課題でした。職員自身は保護者への信頼関係が自らのスキル向上につながることは認識し、研修などで学んでいたものの、話しかけ方や相談しやすい雰囲気づくりに自信が持てませんでした。施設長がまず取り組んだのは園内でのOJTです。ワークショップと合わせて接遇に長けた職員を見本として保護者への対応の仕方を学びました。また、どろんこ会グループの保護者対応の基本となっている「3分間対応」の内容の見直しを行い、保護者自身が「自分たちを見てくれている」と感じ取れる対応について考え、実践しました。しかし、保護者への接し方については職員によってスキルや考え方の違いが見られたことから、まずは苦手意識を払しょくすることに取り組みました。話しかけるきっかけはどのようにつかみ、保護者の思いをいかに引き出すかは、職員一人ひとりのコミュニケーション力が問われますが、全職員が同じレベルには達していないものの、それぞれの個性を發揮しながら保護者との接触を試みるようになりました。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p>具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p>目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p>次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>保護者とのコミュニケーションを豊かにして適切な支援につなげることを目標とした施設長は、苦手意識の払しょくを通して保護者との距離を近づける試みを行いました。保護者からの質問や相談などに対する職員の返答内容を事前に確認したうえで話し合い、修正を加えながら、自分の言葉で保護者に対する話しかけと返答をするように指導した結果、接し方に改善が見られました。職員からは園での子どもの様子を話し、保護者からは家庭における子どもの様子などが聞けるようになるなど、施設長は双方のコミュニケーションが取れるようになったと実感しています。本年度からは新しいメンバーでの取り組みになりましたが、園会議及び日常の保育の中で保護者との接し方や対応について学び合い、理解を深めています。コロナ禍を経て家庭の置かれた状況はこれまで以上に複雑化し、多様化しています。ことに園では認証保育を利用する家庭の特性をしっかりと把握し、的確に対応することが求められ、そのために欠かせないのが保護者とのコミュニケーションです。施設長は双方が話しやすい環境をつくるのが職員のスキルアップにもつながると考えて、取り組みを進めようとしています。</p>	
<p>カテゴリー7評価項目2の講評補足</p>	
<p>非公表 コメント</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	あり	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	あり	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	あり	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	あり	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている
	サブカテゴリ1の講評	
公表 コメント	園の情報をホームページやパンフレットで紹介しています	
	入園を検討している方に向けた園の情報をホームページやパンフレットで見ることができます。どろんこ会グループのホームページでは、大切にしている考えや系列園でのさまざまな活動を見ることができます。園のページでは園の基本情報や保育料などの情報が掲載され、さらに保護者に配付している年間行事計画や園便りなどを見ることができます。そこには月ごとの活動予定や写真を交えた保育の様子などが掲載されています。パンフレットは行政の窓口や地域の子ども家庭支援センター、地域交流センター、児童館で配布されています。	
	ホームページでは年齢ごとの空き情報がこまめに更新されています	
	ホームページでは年齢ごとの空き情報がこまめに更新されています。区の保育園案内のページからも空き情報を見ることができます。見学、入園の希望は、電話またはホームページで受け付けており、入園のしおりを郵送もしくは、見学の時に配付しています。定員いっぱいに入園できない場合には、空き次第連絡することを伝え、希望者には待機登録申請書を送っています。すぐにでも入園したい方には、都内にある系列園の情報を提供したり、近隣の保育情報などを市から得られることを伝えたりしています。	
非 公表 コメント	ていねいに説明することで、安心感と納得感をもって入園できるよう努めています	
	園の見学は随時受け付けており、その場合には日時を調整し、園児が散歩に行っている時間に園内の様子をゆっくり見てもらいながら説明しています。希望があれば園児がいる時に、子どもの様子を見ながら説明することもあります。園の案内は施設長が行い、異年齢での保育や1日2回の散歩、週2回のバスでの畑活動、長時間保育などの保育内容に加え、認可園と認証園の違いや、小規模園の利点、2歳児までの施設であることから3歳児で転園になることなどについて、ていねいに説明し、安心感と納得感をもって入園してもらえるよう努めています。	
	サブカテゴリ1の講評補足	

サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
あり	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
あり	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
あり	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している
あり	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
サブカテゴリー2の講評	
入会手続きの際には、入園に必要な情報をていねいに聞き取っています 入園を希望する方には、まずホームページから入会の申し込みをしてもらいます。この手続きについては電話で説明し、また希望者には来園しての手続きにも対応しています。入会の申し込みでは規定の様式によって、家族構成や生育歴、授乳や離乳食の状況、緊急時の連絡先などについて聞いています。写真や動画の利用を含めた個人情報の取り扱いについての同意もここで得ています。さらに入会手続きの際には、身体の発達や発語の状況、保育内容についての了承など、入園に必要な情報をていねいに聞き取っています。	
個別の状況を把握したうえで保育を進めることができる体制を整えています 利用に関する契約手続きでは、重要事項説明書を用いて、園の考えとそれに基づく保育内容、利用上の基本ルールや注意点などについて対面で説明し、全ての内容への理解を項目ごとのチェックをもって確認しています。説明は1回に最大2家庭と少人数で行っています。また園への要望、持病やアレルギーの有無についてもていねいに聞いています。書面と面接で得られた情報は全職員で共有し、個別の状況を把握したうえで職員全体で保育を進めることができる体制を整えています。こうした取り組みにより、円滑に園での生活が始められる環境を作っています。	
園での生活に円滑になじんでいけるよう徐々に園で過ごす時間を長くしています 入園直後は、園での生活に円滑になじんでいけるよう1週間程度をかけ、はじめの2日は食事前まで、次は食後まで、おやつ後、というように徐々に園で過ごす時間を長くしています。保護者の就労状況などに配慮し、この期間を短くしたり、時には1日目からフルタイムということもあります。また入園直後は特定の保育士とのかかわりを多くしたり、好きなことをして過ごせるようにしたりといった配慮があります。3歳児からは他施設へ転園しますが、書類提出や情報収集などのアドバイスをていねいに行うことで、円滑に移れるようサポートしています。	
サブカテゴリー2の講評補足	
公表コメント	
非公表コメント	

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
あり	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている
あり	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている
あり	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している
あり	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
あり	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している
あり	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している

	サブカテゴリ-3の講評
公表コメント	<p>子どもや家庭についての情報は所定の書式に記録し、職員全員で共有しています</p> <p>入園時に聞き取りをした家庭での生育状況や子どもの健康状態などは、「入所前児童面談票」に記録しています。園での活動の様子、食事や排泄、睡眠といった生活面での情報は、パソコン上にある個別記録に入力し、必要な援助を個別指導計画として作成しています。定期的な記録の振り返りのうえで新たな計画を立てることで、適切な援助となるよう取り組んでいます。保護者からの意見や要望はお迎え伝達シートやご意見・ご提案シートに記録しています。こうして得た情報は職員全員で共有し、変更があった場合には職員会議などで報告しています。</p>
	<p>日々の様子や成長した姿を十分に把握したうえで、子どもの計画を作成しています</p> <p>どろんこ会グループの理念や保育方針を踏まえ、系列各園の施設長が提案・作成した全体的な計画を基に園における全体の計画を作成しています。園では2歳児までを預かっていますが、その後の成長を見通し、5歳児までの計画を立てています。全体の計画から年齢ごとの年間の計画、月間指導計画といった養護と教育を考慮した活動計画があり、さらに個別の週日案を作成しています。計画の作成においては子ども一人ひとりの日々の様子や成長した姿を十分に把握し、それを担当職員で共有し、検討しています。</p>
	<p>年度初めに全保護者に向けて全体的な計画、年間の指導計画を配信しています</p> <p>年度初めには全保護者に向けて全体的な計画、年間の指導計画を配信しています。保護者懇談会を年2回行い、子どもたちの園での活動、成長の様子、さらに指導計画における今後の活動予定について説明しています。希望者には個別面談を行い、子どもの成長とそこの課題、家庭での様子や不安に思っていることについて相談などを受けていますが、現在はあまり多くありません。園では写真をもとに子どもの成長の様子を個別に記録するポートフォリオを作成し職員間で活用していますので、それを保護者との情報共有にも活用されてはいかがでしょうか。</p>
	サブカテゴリ-3の講評補足
非公表コメント	

サブカテゴリ-5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリ-5の講評	
公表コメント	子どもに関する情報を外部とやりとりする時には規定にのっとり保護者に確認しています 個人情報の取り扱いについて、職員が守秘義務やその意味について理解し、適切に扱えるようマニュアルを整備し、定期的な研修などにより確認しています。卒園した子どもについて問い合わせをもらった時など、子どもに関する情報を外部とやりとりする必要がある時には、規定にのっとり保護者に確認しています。外出時に名前が見えないよう名札を付けるかどうかを確認するなど、個人情報の扱いについて入園時に確認しています。活動の様子を伝えるのに多くの写真を用いていますが、これらへの利用の可否も保護者に確認しています。
	子どもの羞恥心に配慮して、目隠しや囲いを作り外部の視線を避ける工夫をしています 入園時の面談を通して、宗教的な理由による食事の制限や保育のことなど、保護者の価値観による必要な配慮について確認しています。一人ひとりの生活リズムや一人ひとりの興味、関心を大切に、子どもが興味を示したことは安全面に配慮しつつ、できるだけ見守るようなかわりがあります。着替えは外部からの視線を避けて行い、外に出て水遊びをする時にもブルーシートを使って目隠しを作るなどの配慮があります。おむつ替えも室内の隅で行い、周りの子どもたちから見えないように囲いを作るなどの工夫があります。
	人権チェックの自己評価を全職員が行い、子どもの人権についての理解を確認しています 子どもの名前を呼ぶ時には、呼び捨てやあだ名で呼ぶことはしないことを徹底しています。半年に1回、人権チェックの自己評価を全職員が行うことで、自分や園での保育が子ども一人ひとりを尊重した保育となっているかを確認し、同時に子どもの人権についての理解を確認しています。区や法人本部が実施する虐待についての研修が定期的であり、そこに参加した職員の報告によって職員間で知識を共有しています。現在は虐待や育児困難家庭への対応はないとのことですが、実際の事例に基づく対応などについての研修機会を持たれてはいかがでしょうか。
非公表コメント	サブカテゴリ-5の講評補足

サブカテゴリ-6	
6	事業所業務の標準化
サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている
あり	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている
あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
サブカテゴリ-6の講評	
職員が共通理解を持って保育を進めることができるようマニュアルを整備しています どんご会グループが作成した「保育運営マニュアル」では、衛生管理、感染症、危機管理、虐待対応、苦情処理などの手順が明確になっています。また職員個々に配付される「保育品質マニュアル」には、保育の計画立案の方法や記録、情報の取り扱いや保護者対応、地域連携、虐待、苦情処理、給食や危機管理などの項目があり、必要な技術や知識が網羅され、一定のレベルで職員が共通理解を持って保育を進めることができるようにしています。これらの内容について改善したいことがある場合には、施設長が申し出ることによって反映される仕組みがあります。	
公表コメント	園内にマニュアルから抜粋した手順を掲示することで、常に確認することができます 「保育運営マニュアル」「保育品質マニュアル」に基づいて日常の保育が進められるように、園内にはそこから抜粋した手順が掲示されています。けがや事故が起きた場合の手順は、その流れをフローチャートで明確にしたものが掲示され、どの職員も緊急時に円滑な対応ができる体制があります。おむつ替えの場所にもその手順が掲示され、また衛生管理なども保育場面ごとにその場で必要な手順を確認しながら進めることができます。これらの内容に基づいて実際の保育が行われているかを定期的な内部監査によって確認しています。
	日替わりでリーダーを立て、職員が協力して効率的に保育を進められる体制があります 翌日の役割分担と時間ごとの活動をスケジュールボードに掲示することで、職員が協力して効率的に保育を進められる体制があります。全ての職員が持ち回りで日替わりのリーダーを務め、翌日のリーダーがこのボードに活動を考え記入します。職員は活動の流れと全体的な動きを理解し、全職員が的確に実施できる仕組みとなっています。子どもや職員の動き、その時の手順にうまくいかないことがあれば相談し改善しています。また、園での好事例などは、どんご会グループ全体で共有され、それが標準化されることで保育の向上につながる仕組みがあります。
	サブカテゴリ-6の講評補足
非公表コメント	サブカテゴリ-6の講評補足

Ⅲ サービスの実施(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 35/35	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇)・非該当1	
	評価	標準項目	
	あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	
	あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	
	あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	
	あり	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	
	あり	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつきの等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	
		6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	非該当
評価項目1の講評			
公表 コメント	子ども一人ひとりの発達段階と成長の様子を把握して個別の計画を作成しています 入園時に保護者から提出を受けた生育歴などの情報や、園での個別記録により、子ども一人ひとりの発達段階と成長の様子を把握しています。その姿に基づき、「個別計画」を作成し、一人ひとりの成長、発達に当てはめた適切な援助を設定しています。特別な配慮が必要な子どもに対しても、職員間でその情報を共有し、一人の個性として認識し、必要な援助をしています。定期的なケース会議を持つことで、子ども一人ひとりの成長の姿とそこでの課題を確認し、職員全体での適切な援助を検討しています。		
	自由に遊べる時間を設け子どもが自ら選んでおもちゃを手にとれるような配慮があります 保育室は1つの部屋を大きく3つに区切り、活動の流れや遊ぶ内容によって分かれて遊べるような環境の構成をしています。おもちゃや絵本は子どもの発達を考慮して設置したうえで、自由に遊べる時間を設け、子どもが自ら選んで手にとれるようにしています。職員が適度に間に入ることで、子ども同士がかかわる機会を増やしたり、言葉でのやりとりを促したりしています。おもちゃの取り合いやかみつきの等、子ども同士のトラブルがあった時には、互いの気持ちを言葉にしながらかみ合う支援をしたり、気持ちに寄り添う対応をしたりしています。		
	特別な配慮が必要な子どもなども自然な形でかかわり合えるような環境があります 異年齢での保育を基本としていることから、0歳児から2歳児までがともに過ごす中で、年上の子どもが年下の子どもの面倒を見たり、年下の子どもは年上の子どもから学び、やってみようとしたりする姿が多く見られます。特別な配慮が必要な子どもも、さまざまな国籍による家庭の子どもも、いっしょに遊び、園生活をともに過ごすことで、違いとしてではなく個性として受け入れ、自然な形でかかわり合えるような環境があります。特別な配慮を必要とする子どもには、必要に応じて関係機関と連携しながら援助ができる体制があります。		
非 公表 コメント	評価項目1の講評補足		

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに 配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
	あり	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
	あり	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
	あり	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	
評価項目2の講評			
公表 コメント	登園時に子どもの体調や家庭での活動状況を確認しています		
	登園時には視診、触診、検温による健康チェックに加え、保護者から家庭での様子についての聞き取りにより、子どもの体調や家庭での生活状況を確認しています。園で導入している保育業務支援システムのアプリを使い、家庭と園とで、食事や睡眠、排泄の状況、体調の変化を共有しています。体調不良やけがなどで欠席した場合にも家庭での様子を確認することで、登園して来たときの適切な援助につなげています。睡眠や食事の状況によっては、園で個別にほかの子どもたちと時間をずらしたり、食べる量を調整したりしています。		
	集団での生活による進め方や方法で、基本的生活の習慣化を促しています		
	トイレトレーニングや衣類の着脱、離乳食などの食事を一人ひとりの発達に合わせて進めています。発達年齢にあわせてできるようになるだろうことを長期的な視点で確認しつつ、月、週といった短期での取り組みによる成長を確認することで、無理なく進めていけるよう支援しています。家庭での姿もていねいに聞き取りつつ、集団での生活とそこでの進め方や方法で習慣化を促しています。トイレトレーニングでは、専用のおむつを用意することで交換を促したり、時間を決めてトイレに行くことで排泄の感覚を整えたりといった工夫があります。		
	降園時にその日の様子をなるべく詳しく伝えていけるよう取り組んでいます		
	降園時には、保護者にその日の様子を口頭で伝えています。「3分間対応」として子どもの様子をなるべく詳しく伝えていけるよう取り組んでいます。この取り組みをもとに、担当の職員がいない場合にも他の職員がその日の様子について伝えていけるよう子どもの情報を共有しています。また単にその日にあったことを伝えるにとどまらず、保護者の思いを聞ける聞き方をテーマに、お手本となる職員を中心に聞き方の共有に努めています。こうした取り組みもあり、今回の利用者調査結果には、職員の対応に好意的な意見が多く寄せられています。		
非 公表 コメント	評価項目2の講評補足		

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
	あり	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	
	あり	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
	あり	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
	あり	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	
	あり	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評			
公表 コメント	毎日2回の散歩に出ることで体力をつけるとともに、季節の変化を感じています 毎日午前と午後の2回、近くの公園などへ散歩に出ています。散歩に出た先で落ち葉などの自然物を拾ったり、草木の色を見たりすることで、季節の変化を感じる機会となっています。体力作りを大きな目的としながら、公園の広さや生えている草木など散歩先の特徴を把握したうえで行き先を決めていますので、その情報を目に見える形で職員間で共有されてはいかがでしょうか。2歳児は週に2回借りている畑に出かけて作物の世話をしています。季節に応じてかぶやさつま芋などを育てて収穫し、それを園内での食育活動に活用しています。		
	リズム体操やダンスをすることで身体機能の発達を促しています 毎日の散歩やリズム体操で体を動かし、身体機能の発達を促しています。リズム体操やダンスをする中で子ども同士が手をつないだり、順番を待ったりする機会を取り入れています。こうした中でトラブルになることもありますが、職員は一人ひとりの思いを受け止めながら対応することで、子ども同士がルールを守ることや人のかかわり方を学んでいます。室内の活動では、粘土や切り絵、お絵かき、シール貼りといった創作活動があります。訪問時には、子どもたちがシールや散歩で拾った落ち葉で作ったみのむしの製作物が展示してありました。		
	子どもの理解に合わせて声かけをし、遊びや生活の中で言葉を増やしています 職員は子どもの理解に合わせて声かけをし、遊びや生活の中で言葉を増やしていけるようにかかわっています。絵本を積極的に活用することで、楽しみながら言葉の感覚を養っています。また異年齢で過ごす中で、大きい子どもとのやりとりから自然に言葉などを学ぶ環境があります。おもちゃや絵本は子どもの遊ぶ様子を見ながら出し入れし、補充は年に3回ほどしています。また保護者などから寄付してもらうこともあります。おもちゃの配置や出し方を変えることで遊びに変化をつけたり、子どもの興味や関心を広げたりする工夫があります。		
非 公表 コメント	評価項目3の講評補足		

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
	あり	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
	あり	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評			
公表 コメント	さまざまな行事を通して、ふだんとは違った経験を楽しんでいます		
	保護者の参加する行事として夏祭り、運動会、生活発表会があります。夏祭りでは園が主導し、ヨーヨー釣りや輪投げなどの屋台を作り、そこに保護者と子どもが浴衣などを着て参加しました。運動会では年齢別に親子競技をしたり、先生も含めたりレーをしたりしました。生活発表会では、テーマを決めてお話の世界を楽しんだり、毎日のリズム体操を披露したりしました。さらに、季節の行事としてハロウィンやクリスマス会を計画し、遠足は体を動かすことを目的に、子どもの発達や興味を考えながら、今年はバスに乗って少し遠くの公園に行きました。		
	保護者の参加する行事は、参加しやすい日時となるよう工夫しています		
	年間の行事予定を年度初めに出して、保護者の参加する行事は土曜日や夕方の時間にするなど保護者が参加しやすい日時となるよう工夫しています。お知らせも毎月発行している園だよりの中だけでなく、何回も伝えることで日程を確認し、当日に向けて期待感を高めていけるよう工夫しています。開催前には、その行事の目的とその内容について説明した文書を配付し、保護者の理解が深まるよう取り組んでいます。行事の後には送迎時の会話や連絡帳から感想や意見をもらい、それらを次年度の企画に反映させています。		
	運動会や発表会に向けて、保護者の前で発表することを楽しみにしながら練習しています		
	運動会や発表会に向けて、子どもたちは保護者の前で発表することを楽しみにしながら準備と練習に取り組んでいます。年間行事や体験活動の内容を決める際には、新人も含め個々の職員が子どもたちにとって必要な経験について考え、前年度の反省も踏まえて行事内容や遠足の行き先などを決めていきます。また子どもたちが保護者の前で発表することに自信と喜びをもてるよう、子どもたちの興味、関心を考慮しつつ無理のない内容としています。畑で収穫した野菜などを使って行うクッキングでも、子どもたちが楽しみながら体験することを大切にしています。		
非公表 コメント	評価項目4の講評補足		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
	あり	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評			
公表 コメント	好きなことをして、飽きずにお迎えを待てる環境作りに努めています		
	8時から18時までの10時間を基本時間とし、7時から8時、18時から20時までを時間外延長としています。朝の時間も含めて、延長の時間に保育の体制が変わることはなく、通常の保育と同様に、異年齢でおもちゃで遊んだり絵本を読んだり、好きなことをして過ごしています。遊べるおもちゃを増やすことで、飽きずにお迎えを待てる環境作りに努めています。さらに少人数になってきた時には個別に絵本を読んであげるなど職員とのスキンシップを増やし、夕方遅くなれば静かに過ごせるようくつろげる環境を整えるといった工夫があります。		
	職員が連携し、長時間になっても切れ目なく保育のできる体制を組んでいます		
	登園時には子どもの体調や連絡事項を保護者から聞き取り、その内容を「伝達ノート」に記入し職員間で共有しています。職員は中番や遅番といったシフトを組むことで、長時間になっても切れ目なく保育のできる体制を組んでいます。お迎えの遅い場合にも、「お迎え伝達ノート」に伝達事項を引き継ぐことで、日中の様子や連絡事項を伝えています。8時前に登園した子どもには補食として牛乳を、19時以降に残る子どもには夕食を提供しています。保育が長時間にわたりますので、時間外での活動や情緒の様子も含め記録に残されてはいかがでしょうか。		
	保育時間に応じて室内環境に変化を加え、子どもたちが飽きずに過ごせる工夫があります		
	保育の時間に応じて棚を移動することで室内環境に変化を加え、子どもたちが飽きずに過ごせるよう工夫しています。子どもの興味や関心に応じておもちゃを配置し、また2週間おきに色別、大きさ別などテーマを決めるなど、配置に変化を持たせています。色別の配置にした時には、2歳児が「あか！」「あお！」と反応し喜ぶ姿が見られました。雨の日にはベンチや滑り台なども出して、室内でも十分に遊べるようにします。室内には季節の花や植物が多く配置されていたり、ハムスターや魚などが飼われていたりするなど、自然を感じられる工夫があります。		
非公表 コメント	評価項目5の講評補足		

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
	あり	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
	あり	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
	あり	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
評価項目6の講評			
公表 コメント	1、2歳児はそのつど自分で決めた場所に盛り付けられた食事を自分で運んでいます 0歳児には月齢や発達に応じて食事介助をし、子どもへの言葉がけも静かにするなどの配慮により、楽しくゆったりと、集中して食べられるよう援助しています。1、2歳児は、「自分でできることは自分です」という園の方針により、そのつど自分で決めた場所に、盛り付けられた食事を自分で運んでいます。汁物をこぼしたり、陶器の食器を落として割ってしまったりすることもあります。それも大事な経験として、その時にどうするのか、次にやらないためにどうするかを学ぶ機会としています。		
	給食はいろいろなものをおいしく食べられるよう、統一した献立を使っています 給食はいろいろなものをおいしく食べられるよう、どろんこ会グループで統一した献立を使っています。アレルギー対応食は「食物アレルギー除去食申請書」を提出してもらい、保護者と調理員、施設長、担任とで面談をしたうえで提供しています。離乳食は個々の発達に応じて食べる量や、そしゃく具合などを見ながら進め、また子どもたちの反応や好き嫌いについても聞き取り、献立作りに反映させています。調理員が食事の様子を見て回り、食材の大きさや堅さ、形などを調整することで、子どもたちが無理なく食べやすいよう配慮しています。		
	畑やプランターでさまざまな作物を育て、それらで調理する機会が豊富にあります 食への興味関心を高め、いろいろなものを食べられるよう調理員と職員がアイデアを出し合い、食育計画表を作成しています。園の前のプランターや、2歳児が週2回行く園の畑では、ピーマンやなす、かぶ、オクラ、さつまいも、ブロッコリーなどの作物を栽培しています。また梅を漬けてシロップを作ったり、ピザやスイートポテトを作ったり、大根やかぶを洗って皮をむくなど、子どもたちの手で調理をする機会が豊富にあります。訪問時には、そうした姿を写真に撮って作ったポートフォリオが何枚も玄関に掲示しており、保護者にもその様子を伝えています。		
非 公表 コメント	評価項目6の講評補足		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
	あり	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
	あり	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
	あり	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	
評価項目7の講評			
公表 コメント	清潔に保つことや安全に過ごすための注意点について保育者がていねいに伝えています		
	登園時の視診や保護者との会話、連絡帳での食事や睡眠の状況から子どもの健康状態を確認しています。毎日こまめに手洗い、うがいをするよう促し、その意味や必要性を伝えることで、子どもが自ら進んでできるよう取り組んでいます。毎日散歩をする中で、道路の歩き方や交通ルールについて伝えています。公園などでは危険を予測し、遊具などを点検したうえで、そこでの遊び方のルールや遊具などは実際に保育者が見本を見せて遊び方を伝えています。1歳児の年明けから歯ブラシを使いはじめ、2歳児では毎日歯磨きをしています。		
	年間の保健計画を作成し、保育者の配慮について明確にしています		
	年間の保健計画を作成し、子どもたちが基本的な生活習慣を身につけるために生活リズムを整えたり、体力をつけたりするための活動や保育者の配慮について明確にしています。嘱託医による内科健診を年2回実施し、発達や病気に関することなど、気になることがあればこの時に相談し、アドバイスをもらうことができます。投薬の必要な子どもには「与薬依頼票」により、必要な情報を記入してもらったうえで、1回分の薬を預かっています。		
	保健だよりを通して、健康でいるために必要な習慣や注意点などの情報を発信しています		
	毎月発行している保健だよりでは、感染症や熱中症への対策や、時期に応じて生活の中で健康でいるために必要な習慣や注意点などの情報を発信しています。感染症の発生状況については、必要に応じて掲示したり、アプリで通知したりすることで保護者への注意を促しています。乳幼児突然死症候群(SIDS)予防のため、5分ごとに睡眠チェックを行い、寝ている体位、布団のかかり具合、呼吸の状態などをチェックし、それをアプリを使って記録しています。家庭でも注意を促すために区から配布される資料を配付しています。		
非 公表 コメント	評価項目7の講評補足		

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
	あり	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
	あり	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
	あり	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
	あり	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評			
公表 コメント	就業時間や就労状況について把握し、それによって保育時間を定めています		
	入園時に提出を受けた書類から、就業時間や就労状況について把握し、それによって保育時間を定めています。残業等により保育時間が変更になる場合にも、職員の状況が整えば柔軟に対処しています。就労状況に伴う保育時間の変更にも、職員のシフトを調整することで対応しています。送迎時の伝達や会話から、園と家庭とで子どもの情報を共有するだけでなく、保護者の思いや希望を聞き取れるよう努めています。ささいな態度の変化や連絡帳の記述などからもそうした思いを拾い上げ、気になることがあれば連絡を入れるなどこまやかに対応しています。		
	保護者懇談会では、園での子どもたちの姿や今後の見通しなどを伝えています		
	年2回の保護者懇談会では、園での子どもたちの姿を成長報告として伝えるとともに、今後半年間の活動やそこでの発達課題、今後の成長の見通しなどについて伝えています。その後には保護者同士の懇親の時間を取り、子育てに関する情報交換をしたり、保育内容についての意見交換をしたりしています。こうした機会を通して、園と保護者、保護者同士が子育てについての共通理解を深められるよう取り組んでいます。また保護者の代表が参加する運営委員会でも意見交換をして保育の状況を伝え、互いの認識を共有できるように努めています。		
非 公表 コメント	行事等の企画運営に保護者が参加できる機会を作られてはいかがでしょうか		
	保護者との個人面談は、希望があれば時間を取り、しっかりと子どもについての情報を共有し、また保護者の思いを聞く機会としています。現在は年3、4人とこうした時間を取る保護者は少ないとのことですが、園と家庭がいっそう協力して子どもの育ちにかかわっていけるよう、こうした機会が増えることを期待します。また夏祭りや運動会など保護者が参加する行事がありますが、現在、企画運営は職員で進めています。保護者が園の保育やその運営について理解し、園との信頼関係を深められるよう、企画からかかわれる機会を作られてはいかがでしょうか。		
評価項目8の講評補足			

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	あり	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評			
公表 コメント	地域の商店街や図書館を訪問する「商店街ツアー」をしています		
	地域の商店街や図書館を訪問し、その場所や仕事の様子を見せてもらう「商店街ツアー」を実施しています。ハロウィンやクリスマスなどのイベントでは商店街を訪問し、プレゼント交換をして交流しています。コロナ禍以前は子ども支援センターや児童館にも訪問し利用していましたが、現在は控えています。町内の祭りにもコロナ禍以前は参加していましたが、現在はしていません。こうした活動が再開され、地域資源を利用した活動や近隣の小中学校や高校、保育園などとの交流がより活発になることを期待します。		
	地域の子育て親子を対象にした「青空保育」や「子育てサロン」を毎月実施しています		
	毎日、午前午後の2回、近隣の公園などに散歩に出かけています。自然の豊かな公園に行ったときには、虫探しや落ち葉拾いなどをして季節の変化を感じるなど、地域の資源を生かして子どもたちの活動の幅を広げています。また公園で地域の子育て親子に向けて絵本の読み聞かせをしたり、紙芝居を読んだりする「青空保育」や、園に来て製作や水遊びができる「子育てサロン」を毎月実施しています。現在、その参加者はそう多くないとのことですので、活動内容や広報の方法などを検討し、より多くの参加者があることを期待します。		
非 公表 コメント	子育て支援活動を伝える「ちきんえつぐだより」を毎月発行しています		
	子育て家庭に向けた園の子育て支援活動を伝える「ちきんえつぐだより」を毎月発行しています。ここには「青空保育」や「子育てサロン」の活動報告や募集のお知らせを掲載し、それを園の前に貼り出したり、ホームページなどに掲載したりしています。また、ここには園で子育て相談も受け付けていることを掲載しています。このお便りは園の玄関に設置し、園に通う保護者も手に取ることができます。どろんこ会グループのホームページには、系列園のさまざまな保育活動についての記事が掲載されており、そこには子育てに役立つ情報が多く含まれています。		
評価項目9の講評補足			

調査対象	保育園を利用している20世帯を対象に調査を実施しました。在園児は21名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。		
調査方法	アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は保護者から直接評価機関へ郵送する方法によりました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、保育園に報告しました。		
利用者総数	21		
利用者家族総数(世帯)	20		
共通評価項目による調査対象者数	20		
共通評価項目による調査の有効回答者数	19		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	95.0%		

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が11人(57.9%)、「満足」が7人(36.8%)で「満足」以上の回答は合計18人(94.7%)でした。

自由意見には、「総合的に満足しています。何より子どもが保育園に行くのを楽しみにしているので、保護者としても嬉しいです」「子どもの個性に合わせて、柔軟に対応してくださって助かっています」「アットホームで、子どもの成長を共に喜んでくださるので親にとっても心強く、安心してお任せできると感じています」「どの職員も、どんなことも受け入れようとしてくれる態度が素晴らしいです」「保護者の負担を最小限にしてくださっているところが、大変ありがたいです」「連絡がアプリで完結するので、効率的だと感じます」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」で100.0%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が見取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	19	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「歩き出しの頃からたくさん歩かせてもらい、体力もつきました」「子どもの自己肯定感を高めてくれています」「畑に行ったり、はだし保育だったり、夕方の散歩や長距離散歩、ぞうきんがけなど、素晴らしいです。子どものいいところを伸ばしてくれます」「室内の活動でも指先を使う遊びから、体を使ってダンスや運動など、工夫されていてとても良いです」「異なる年齢の子どもたちが、仲良く遊んでいます」「活動的になったと思います」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	19	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「家庭ではできない事を、経験させてもらえる園です」「内、外での遊び方も非常に柔軟で、子どもが飽きない工夫がされています」「楽しいイベントをいろいろ考えていただいているようで、子どもはとても楽しそうです」「外遊びや食育、工作など、さまざまな作業をバランスよく行ってくれるところが良いです」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	16	3	0	0
「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が15.8%でした。 自由意見には、「保育園の食事はとてもおいしいようで、子どもは喜んでいきます」「皆で野菜を収穫して何かを作って食べたり、食育もしている点も良いです」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	17	2	0	0
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が10.5%でした。 自由意見には、「畑に行ったり、商店街を散歩したり、工夫されていると思います」「毎日散歩や公園に連れ出してくださり、地域になじんで運営されていると思います」などの声がありました。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	13	3	1	2
「はい」が68.4%、「どちらともいえない」が15.8%、「いいえ」が5.3%、「無回答・非該当」が10.5%でした。 自由意見には、「可能な範囲で、柔軟に対応していただいています」「経験がありません」などの声がありました。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	13	6	0	0
「はい」が68.4%、「どちらともいえない」が31.6%でした。 自由意見には、「緊急時は経験がないので、よくわかりません」などの声がありました。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	16	3	0	0
「はい」が84.2%、「どちらともいえない」が15.8%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	15	4	0	0
「はい」が78.9%、「どちらともいえない」が21.1%でした。 自由意見には、「何でもご相談ください、と声をかけていただきました」などの声がありました。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	17	2	0	0
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が10.5%でした。 自由意見には、「頑張ってくださいと思っています」などの声がありました。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	18	1	0	0
「はい」が94.7%、「どちらともいえない」が5.3%でした。 自由意見には、「とても良いです」「先生たちがみなさん感じが良く、話しやすいです」「職員の対応はとても気持ちが良いです」「先生がみんな親切で、嫌な顔をせずに聞いてくれました」「保育士の方々も、雰囲気の良い優しい方々が多く、柔軟に対応してもらっています」「どの先生もみんな優しく接してくれます」などの声がありました。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	13	5	0	1
「はい」が68.4%、「どちらともいえない」が26.3%、「無回答・非該当」が5.3%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	12	5	0	2
「はい」が63.2%、「どちらともいえない」が26.3%、「無回答・非該当」が10.5%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	19	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「子どもを尊重してくれています」「先生方すべてが、子ども一人ひとりに親身になって対応してくれています。ダメだとは言わず、別の言い方で子どもが納得いくように話しかけています」「先生方が、子どもの話によく耳を傾けてくれます」「個性を大事にしてくれるので、子どもにとってとてもありがたいです」などの声がありました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	17	1	0	1
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が5.3%、「無回答・非該当」が5.3%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	18	0	1	0
「はい」が94.7%、「いいえ」が5.3%でした。 自由意見には、「保護者会での説明で、ひと通り理解しています」「お迎え時に、とても詳しく、楽しく、おもしろく話をしてくれます」「帰りのお迎えの際、子どもの一日の様子などについての口頭での報告が、ていねいでありがたいです」「アプリのタイムラインで写真をアップしてくれるので、言葉だけでなく、状況や様子がわかりやすいです」などの声がありました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	17	1	0	1
「はい」が89.5%、「どちらともいえない」が5.3%、「無回答・非該当」が5.3%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	12	5	0	2
「はい」が63.2%、「どちらともいえない」が26.3%、「無回答・非該当」が10.5%でした。 この質問に関連するコメントはありませんでした。				